

I 調査結果の概要

1 米

(1) 要 旨

平成24年産水陸稲の収穫量は、水稻が851万9,000 t、陸稲が3,630 t となり、水陸稲合計で852万3,000 t で、前年産に比べ12万1,000 t (1%) 増加した。これは水稻の10 a 当たり収量が前年産を7 kg (1%) 上回ったためである。

水稻の作柄は、全国平均で作況指数102、10 a 当たり収量は540kgとなった。これは、一部地域で6月上旬から中旬にかけて日照不足等の影響がみられたものの、以降の気温及び日照時間が平年を上回り、全もみ数がおおむね平年並みに確保されたことに加え、登熟も順調であったためである。

陸稲の作柄は、主産地の茨城県及び栃木県において、出穂後の高温・少雨により干害が発生したこと等から、全国の10 a 当たり収量は172kg、10 a 当たり平均収量対比は68%となった。

平成24年産水稻の被害量は52万6,000 t、被害率は6.3%で、平年に比べて2.9ポイント、前年産に比べて1.3ポイント下回った。

(表1-1、図1-1)

図1-1 水稻の作付面積及び収穫量の推移(全国)

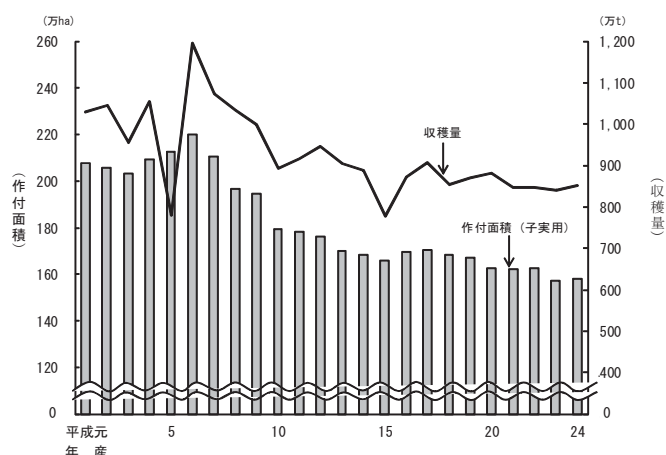


表1-1 平成24年産水陸稲の作付面積、10 a 当たり収量、収穫量及び被害量

全 国 農業地域	作付面積 (子実用)	10 ^a 当た り 収 量	収 穫 量 (子実用)	作 況 指 数 (対平年比)	前 年 産 と の 比 較						参 考	
					作 付 面 積		10 ^a 当 たり 収 量	収 穫 量		主 食 用 作付面積	収 穫 量 (主食用)	
					対 差	対 比		対 差	対 比			
	千ha	kg	千t		千ha	%	%	千t	%	千ha	千t	
水 陸 稲 計	1,581.0	—	8,523.0	—	5.0	100	nc	121.0	101	…	…	
水 稲	1,579.0	540	8,519.0	102	5.0	100	101	122.0	101	1,524.0	8,210.0	
北 海 道	112.0	572	640.6	107 △	0.9	99	102	6.1	101	108.7	621.8	
東 北 道	396.7	577	2,288.0	103	7.7	102	102	89.0	104	374.5	2,159.0	
北 陸 道	209.4	545	1,141.0	102	0.6	100	101	19.0	102	194.1	1,057.0	
関東・東山	295.5	542	1,603.0	101 △	0.1	100	102	26.0	102	288.0	1,563.0	
東 海 道	101.9	507	516.9	101 △	0.5	100	101	2.5	100	100.8	510.9	
近 畿 畿	109.1	515	561.4	101 △	0.2	100	102	10.2	102	107.4	552.7	
中 国 国	114.7	524	601.4	101 △	0.4	100	100	1.0	100	113.0	592.1	
四 国 国	55.8	482	269.0	100 △	0.4	99	101	0.4	100	55.5	267.1	
九 州 州	183.3	489	895.7	97 △	0.2	100	97 △	31.3	97	181.2	884.5	
沖 縄 縄	0.9	267	2.5	86 △	0.0	100	97 △	0.0	96	0.9	2.5	
陸 稲	2.1	172	3.6	68 △	0.3	89	78 △	1.6	70	…	…	

全 国 農業地域	被 害					
	被害面積	被 害 実面積	被害量	被 害 率		
				本 年	対平年差	対前年差
	千ha	千ha	千t	%	ポイント	ポイント
水 陸 稲 計	…	…	…	…	…	…
水 稲	3,083.0	1,317.0	526.0	6.3	△ 2.9	△ 1.3
北 海 道	105.4	70.1	15.2	2.5	△ 7.8	△ 2.0
東 北 道	730.8	347.7	127.0	5.7	△ 4.0	△ 2.0
北 陸 道	330.5	161.7	25.8	2.3	△ 2.6	△ 1.8
関東・東山	458.4	214.1	96.2	6.1	△ 2.3	△ 2.4
東 海 道	237.6	91.2	30.1	5.9	△ 0.7	△ 1.3
近 畿 畿	226.8	96.8	32.3	5.8	△ 1.5	△ 1.6
中 国 国	214.0	98.9	34.6	5.8	△ 1.6	△ 0.9
四 国 国	178.1	54.7	29.4	10.9	△ 0.1	△ 0.9
九 州 州	600.2	181.5	134.9	14.6	2.8	3.2
沖 縄 縄	0.9	0.6	0.5	19.3	11.3	2.7
陸 稲	…	…	…	…	…	…

注：1

を

除いた5箇年の平均値（10a当たり平均収量）と

2

主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を

需給調整の取組として取り扱う米穀等（備蓄米、加工

米等）の作付面積を除いた面積である。

3

被害面積は被害種類別の面積を合計したもので、2

を受けた場合は重複して計上してある（表1－3にお

4

被害実面積は上記3のうち、重複部分を除いた面積

5

被害率は（被害量÷平年収量）×100である（表1

において同じ。）。

6

被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外平

である（表1－3及び表1－4において同じ。）。

注：1 陸稲の作況指数欄は、原則として直近7箇年のうち、最高及び最低を除いた5箇年の平均値(10 a 当たり平均収量)との対比である。
2 主食用作付面積とは、水稻作付面積(青刈り面積を含む。)から、需給調整の取組として取り扱う米穀等(備蓄米、加工用米、新規需要米等)の作付面積を除いた面積である。
3 被害面積は被害種類別の面積を合計したもので、2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上してある(表1-3において同じ。)
4 被害実面積は上記3のうち、重複部分を除いた面積である。
5 被害率は(被害量÷平年収量)×100である(表1-3及び表1-4において同じ。)
6 被害率の対平年差は、昭和54年以降の異常値除外平均被害率との差である(表1-3及び表1-4において同じ。)

(2) 解 説

ア 作付面積（子実用）

(ア) 水 稲

平成24年産水稻の作付面積（子実用）は157万9,000haで、前年産並みとなった。

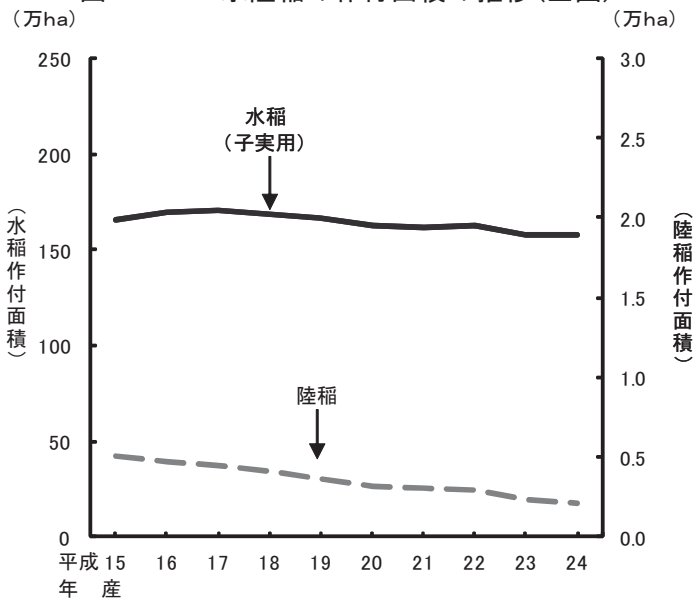
（表1－1、図1－2）

(イ) 陸 稲

平成24年産陸稲の作付面積は2,110haで、前年産に比べて260ha（11％）減少した。

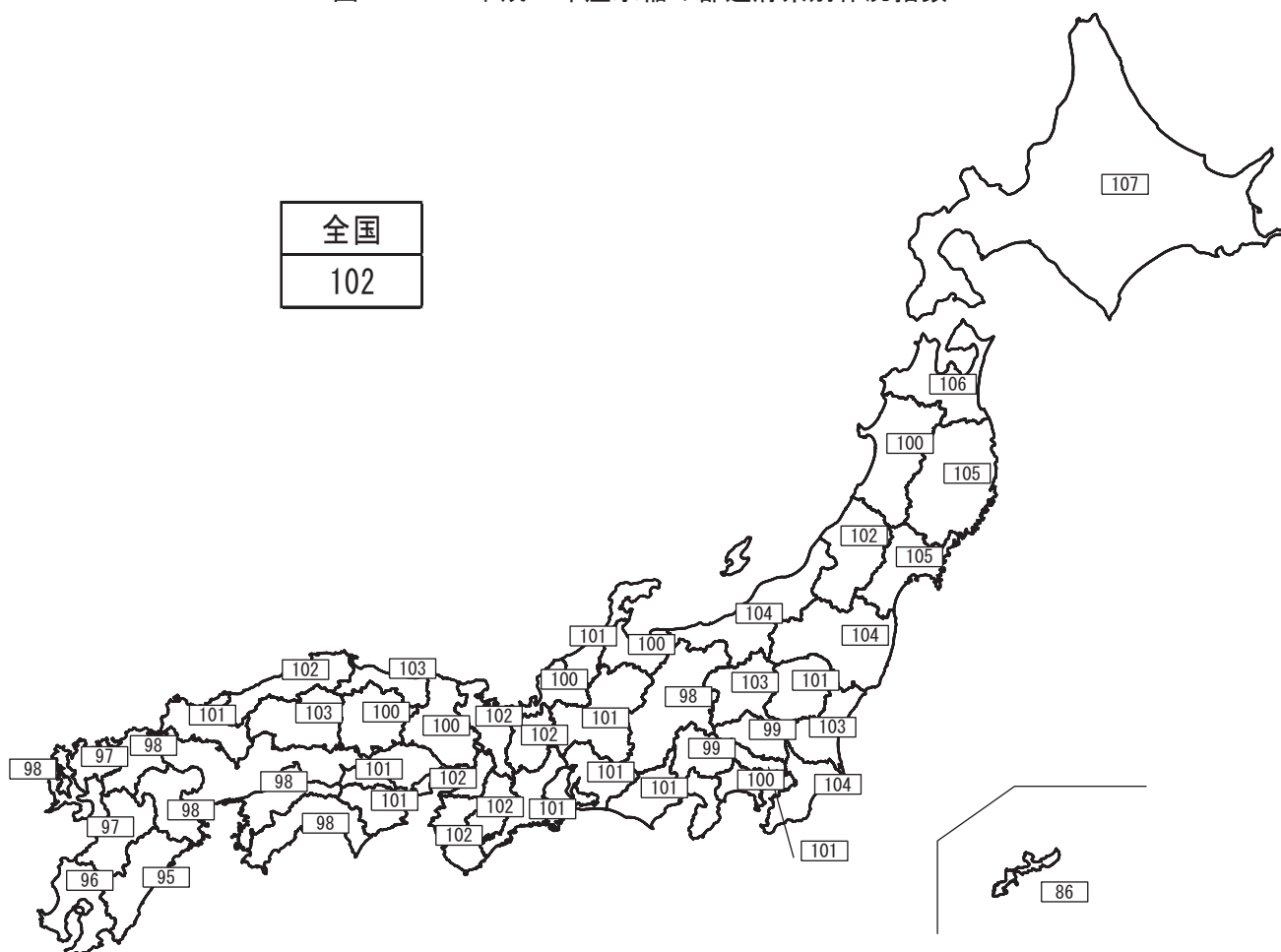
（表1－1、図1－2）

図1－2 水陸稲の作付面積の推移(全国)



イ 作柄概況

図1－3 平成24年産水稻の都道府県別作況指数



注： 西南暖地の早期栽培等の地域（徳島県、高知県、宮崎県、鹿児島県及び沖縄県）は早期栽培（第一期稲）、普通期栽培（第二期稲）を合算したものである。

1 穂当たりもみ数は、宮城県及び福島県で平年に比べ「やや多い」となったほか、秋田県を除いた各県では穂数が平年を上回ったことにより、「やや少ない」となった。なお、秋田県では6月中旬から下旬の低温で生育が抑制され、その後天候が回復したものの、着粒の少ない穂が多かったため、「少ない」となった。以上のことから、全もみ数は秋田県で平年に比べ「やや少ない」となったほか、各県で「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、青森県で「良」となったほか、各県で「やや良」となった。

このため、10 a 当たり収量は、青森県619kg（作況指数106）、岩手県559kg（同105）、宮城県559kg（同105）、秋田県573kg（同100）、山形県604kg（同102）、福島県557kg（同104）となり、東北平均で577kg（同103）となった。（図1－6、1－7）

図1－6 平成24年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（東北）

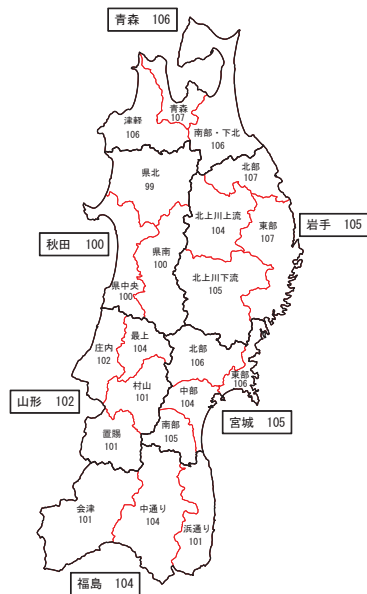
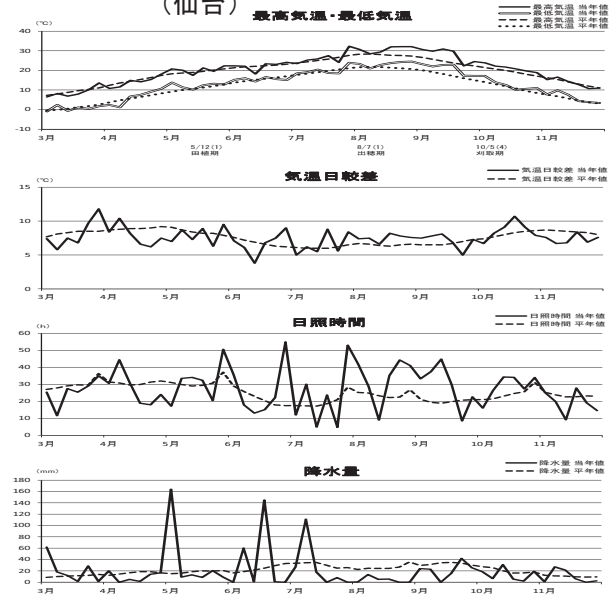


図1－7 平成24年産稲作期間の半月別気象経過（仙台）



c 北 陸

田植期は福井県で遅植えの普及により平年に比べ4日遅くなったほかは、各県でおおむね平年並みとなり、出穂期は7月中旬以降気温・日照時間がおおむね平年を上回ったため、富山県及び石川県で3日ないし4日早くなったほか、各県で平年並みとなった。

穂数は、富山県で中干しが徹底されたこと及び福井県で遅植えの普及により生育期間が短かったことから、平年に比べ「やや少ない」となったほか、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、富山県で7月の高温・多照で幼穂形成期から出穂期までの期間が短くなったため、平年に比べ「やや少ない」となったほか、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は富山県で平年に比べ「やや少ない」となったほか、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、富山県で平年に比べ「やや良」となったほか、各県で「平年並み」となった。

このため、10 a 当たり収量は、新潟県558kg（作況指数104）、富山県536kg（同100）、石川県526kg（同101）、福井県519kg（同100）となり、北陸平均で545kg（同102）となった。

（図1－8、1－9）

図 1－8 平成24年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（北陸）

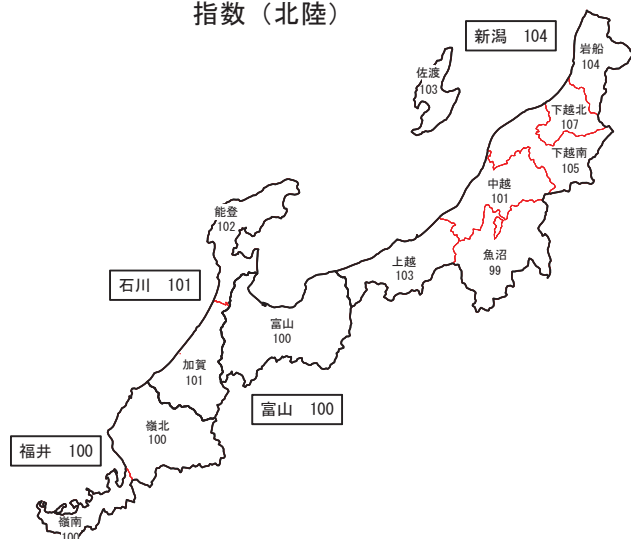
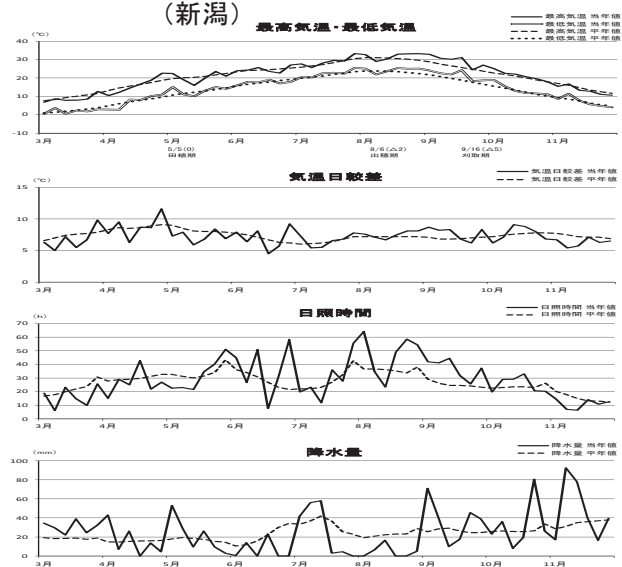


図 1－9 平成24年産稲作期間の半旬別気象経過（新潟）



d 関東・東山

田植期は各都県で平年並みとなり、出穂期も各都県で平年並みとなった。

穂数は、神奈川県及び長野県で田植期後の気温・日照時間が平年を下回って推移したため、平年に比べ「やや少ない」となったほかは、各都県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、6月中旬から下旬にかけての低温等の影響により、各都県で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。以上のことから、全もみ数は栃木県及び神奈川県で平年に比べ「やや少ない」、長野県で「少ない」となったほかは、各都県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

登熟は、気温・日照時間がおおむね平年を上回って推移したため、各都県で平年に比べ「やや良」ないし「平年並み」となった。

このため、10a 当たり収量は、茨城県540kg（作況指数103）、栃木県544kg（同101）、群馬県508kg（同103）、埼玉県486kg（同99）、千葉県552kg（同104）、東京都416kg（同101）、神奈川県493kg（同100）、山梨県542kg（同99）、長野県610kg（同98）となり、関東・東山平均で542kg（同101）となった。（図 1－10、1－11）

図 1－10 平成24年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（関東・東山）

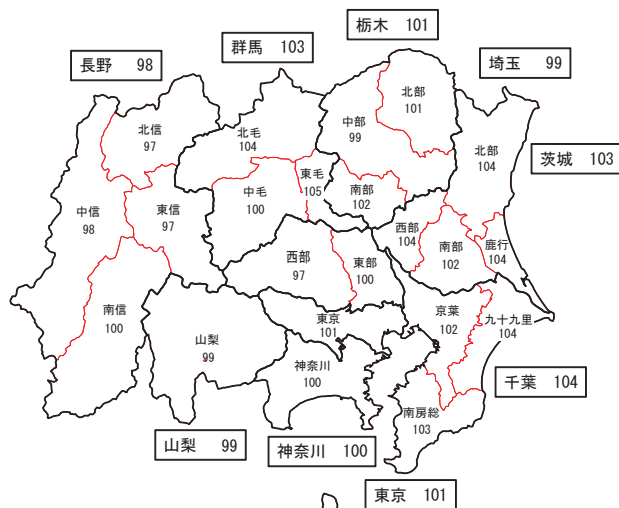
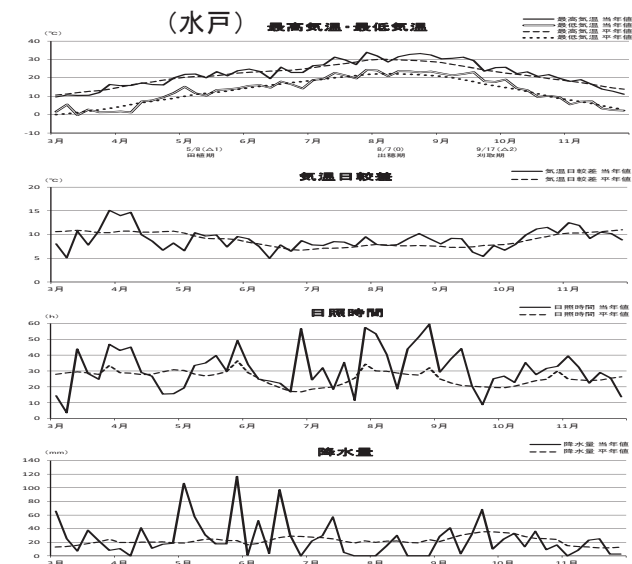


図 1－11 平成24年産稲作期間の半旬別気象経過（水戸）



e 東海及び近畿

田植期は各府県でおおむね平年並みとなり、出穂期も各府県でおおむね平年並みとなった。

穂数は、愛知県、三重県、京都府、兵庫県及び和歌山県で6月上旬から中旬にかけて日照不足等の影響により平年に比べ「やや少ない」となったほか、各府県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。

1穂当たりもみ数は、三重県、京都府及び和歌山県で穂数が平年を下回ったことにより、平年に比べ「やや多い」となったほか、各府県で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。以上のことから、全もみ数は奈良県で平年に比べ「やや多い」となったほか、各府県で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。

登熟は、出穂期以降おおむね天候に恵まれたことから各府県で平年に比べ「やや良」ないし「平年並み」となった。

このため、10a当たり収量は、岐阜県492kg（作況指数101）、静岡県525kg（同101）、愛知県510kg（同101）、三重県507kg（同101）、滋賀県529kg（同102）、京都府519kg（同102）、大阪府507kg（同102）、兵庫県502kg（同100）、奈良県523kg（同102）、和歌山県504kg（同102）となり、東海平均で507kg（同101）、近畿平均で515kg（同101）となった。（図1-12、1-13）

図1-12 平成24年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（東海及び近畿）

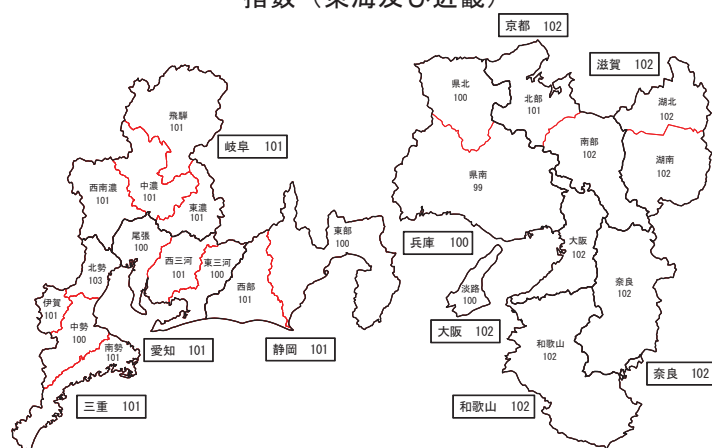
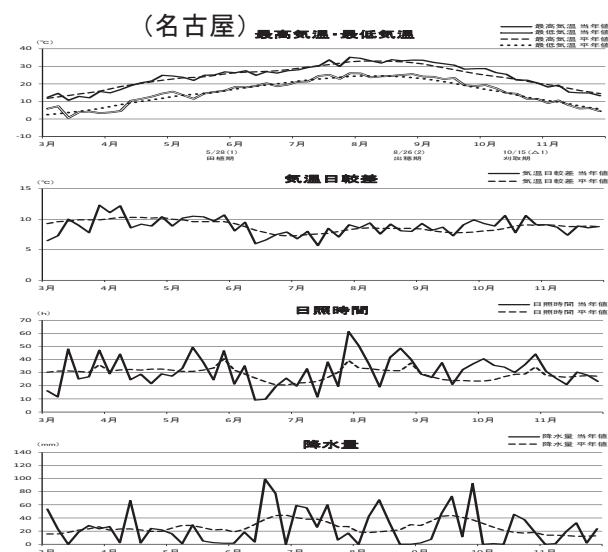


図1-13 平成24年産稲作期間の半月別気象経過



f 中国及び四国

田植期は各県でおおむね平年並みとなり、出穂期は鳥取県、島根県及び山口県で7月中旬以降の気温・日照時間が平年を上回って推移したため、平年に比べ3日早くなったほか、各県で平年並みとなった。

穂数は、岡山県で「平年並み」となったほかは、6月の日照時間が平年を下回って推移した影響等のため、各県で「やや少ない」ないし「少ない」となった。

1穂当たりもみ数は、岡山県で平年に比べ「やや少ない」となったほか、各県で穂数が平年を下回ったことの補償作用により、「やや多い」ないし「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は愛媛県及び高知県（早期栽培）で平年に比べ「少ない」となったほか、各県で「平年並み」ないし「やや少ない」となった。

登熟は、徳島県（早期栽培）で「平年並み」、高知県（普通栽培）で8月下旬から9月中旬にか

けて日照時間が平年を下回って推移した影響等により、「やや不良」となったほかは、出穂期以降、気温・日照時間が平年を上回って推移したため、各県で「やや良」となった。

このため、10 a 当たり収量は、鳥取県527kg（作況指数103）、島根県519kg（同102）、岡山県527kg（同100）、広島県539kg（同103）、山口県507kg（同101）、徳島県477kg（同101）、香川県504kg（同101）、愛媛県490kg（同98）、高知県449kg（同98）となり、中国平均で524kg（同101）、四国平均で482kg（同100）となった。（図1-14、1-15）

図1-14 平成24年産水稻の作柄表示地帯別作況指数（中国及び四国）

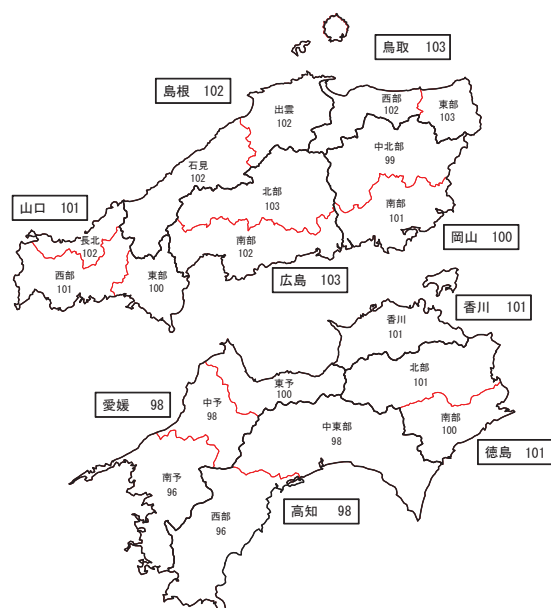
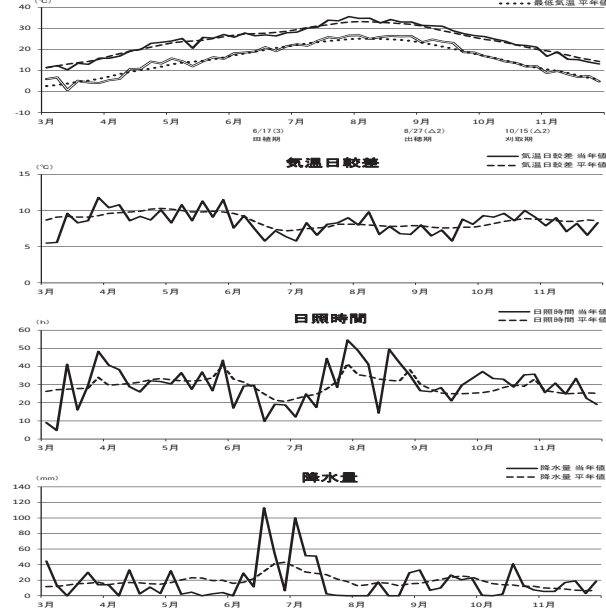


図1-15 平成24年産稲作期間の半月別気象経過（岡山）



g 九州及び沖縄

九州においては、田植期は各県で平年並みとなり、出穂期も各県で平年並みとなった。

穂数は、福岡県及び佐賀県で「平年並み」となったほか、6月の日照時間が平年を下回ったこと等により、各県で「やや少ない」ないし「少ない」となった。

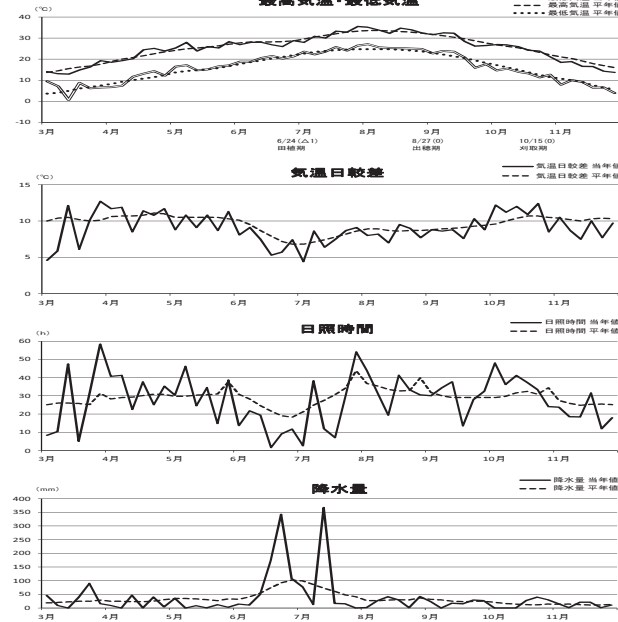
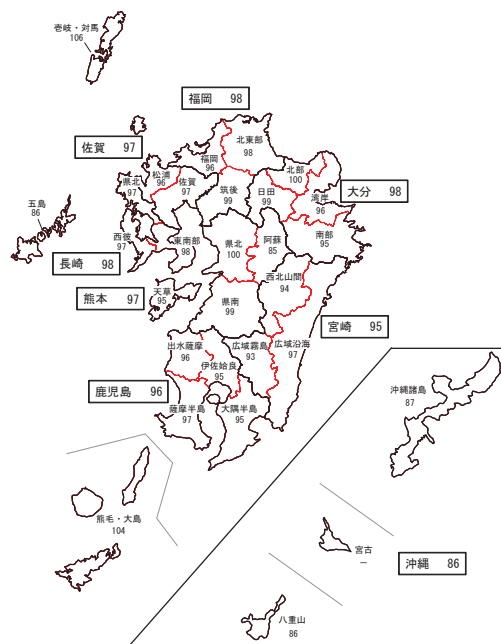
1穂当たりもみ数は、佐賀県で8月中旬の日照時間が平年を下回ったこと及び宮崎県（早期栽培）で5月中旬から6月にかけて気温・日照時間が平年を下回って推移したことから、平年に比べ「やや少ない」となったほか、各県で「やや多い」ないし「平年並み」となった。以上のことから、全もみ数は福岡県及び長崎県で「平年並み」となったほか、各県で「やや少ない」ないし「少ない」となった。

登熟は、出穂期以降おおむね天候に恵まれたこと、全もみ数が平年に比べ少なかったこと等により各県で「やや良」ないし「平年並み」となった。長崎県は台風第16号の影響等により「やや不良」となった。

このため、10 a 当たり収量は、福岡県490kg（作況指数98）、佐賀県509kg（同97）、長崎県468kg（同98）、熊本県501（同97）、大分県491kg（同98）、宮崎県473kg（同95）、鹿児島県464kg（同96）となり、九州平均で489kg（同97）となった。

沖縄県は、第一期稲の作柄が、干ばつにより収穫皆無となった地域があった影響で作況指数97となったことに加えて、第二期稲で、台風第16号及び第17号の影響等により作況指数54となったことから、県計の10 a 当たり収量は267kg（同86）となった。（図1-16、1-17）

図 1－16 平成24年産水稻の作柄表示地帯別作況 図 1－17 平成24年産稲作期間の半月別気象経過
指数（九州及び沖縄） （熊本）



(イ) 陸 稲（主産地域）

主産地の茨城県及び栃木県において、出穂後の高温、少雨により干害が発生したこと等から、10 a 当たり平均収量対比は茨城県が63%、栃木県が77%であった。

（表 1－2）

表 1－2 平成24年産陸稲の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較							(参 考) 10 a 当 たり 平均収量対比
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量				
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	千 ha	kg	千 t	千 ha	%	%	千 t	%	%		
	2.1	172	3.6 △	0.3	89	78 △	1.6	70	68		
う ち 茨 城	1.4	166	2.3 △	0.2	90	73 △	1.2	65	63		
	0.5	192	1.0 △	0.0	88	89 △	0.3	78	77		

注： 「(参考) 10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近 7 箇年のうち、最高及び最低を除いた 5 箇年の平均値）に対する当年産の 10 a 当たり収量の比率である。

ウ 水稲の被害の概要

全国の被害量は52万6,000 t、被害率は6.3%で、平年に比べて2.9ポイント下回った。これは、梅雨明け以降、温度・日照時間共に回復し、四国及び九州を除きその後もおおむね平年を上回って推移したためである。

被害種類別にみると、気象被害の被害率は3.9%で、平年を1.9ポイント下回った。このうち、風水害の被害率は0.7%で平年を1.1ポイント下回り、冷害の被害率は0.2%で平年を1.9ポイント下回った。

病害の被害率は1.5%で、平年を1.1ポイント下回った。このうち、いもち病の被害率は0.7%で平年を0.8ポイント下回り、紋枯病の被害率は0.4%で平年を0.2ポイント下回った。

虫害の被害率は0.6%で、平年を0.1ポイント下回った。このうち、ニカメイチュウの被害率は0.1%で平年並み、ウンカの被害率は0.2%で平年を0.1ポイント下回った。(表1-3、1-4、図1-18)

表 1－3 平成24年産水稲の被害

被害種類	被害面積	被害量	被害率		
			本年	対平年差	対前年差
	ha	t	%	ポイント	ポイント
総数	3,083,000	526,000	6.3	△ 2.9	△ 1.3
気象被害	1,729,000	329,900	3.9	△ 1.9	△ 1.2
風水害	260,400	56,800	0.7	△ 1.1	△ 1.0
干害	19,600	6,550	0.1	0.0	0.1
冷害	75,500	14,100	0.2	△ 1.9	△ 0.1
日照不足	666,700	149,000	1.8	nc	△ 0.4
高温障害	454,600	44,500	0.5	nc	0.3
その他の	251,900	58,900	0.7	nc	0.0
病害	701,800	123,700	1.5	△ 1.1	△ 0.1
いもち病	239,300	56,800	0.7	△ 0.8	△ 0.2
紋枯病	235,500	37,400	0.4	△ 0.2	△ 0.1
その他の	227,000	29,500	0.4	0.0	0.1
虫害	532,200	49,700	0.6	△ 0.1	0.1
ニカメイチュウ	58,900	5,610	0.1	0.0	0.0
ウンカ	80,000	15,300	0.2	△ 0.1	0.1
カメムシ	113,100	11,100	0.1	nc	0.0
その他の	280,200	17,700	0.2	nc	△ 0.1

注： 気象被害のうち「日照不足」、「高温障害」及び「その他」並びに虫害のうち「カメムシ」及び「その他」については、平成14年産から気象被害及び虫害について表章区分の見直しを行ったことから、平年差の比較をしていない。

表 1－4 平成24年産水稻の被害種類別被害率及び対平年差（全国農業地域別）

全国農業地域・区分		総 数	気 象 被 害					病 害			虫 害				
			風水害		冷 害	日照不足	高温障害	いもち病		紋枯病	カメイチャウ			ウンカ	カメムシ
全 国	被害率（％）	6.3	3.9	0.7	0.2	1.8	0.5	1.5	0.7	0.4	0.6	0.1	0.2	0.1	
	対 平 年 差	△ 2.9	△ 1.9	△ 1.1	△ 1.9	nc	nc	△ 1.1	△ 0.8	△ 0.2	△ 0.1	0.0	△ 0.1	nc	
北 海 道	被害率（％）	2.5	2.0	0.2	1.8	-	0.0	0.5	0.2	-	0.1	0.0	0.0	0.0	
	対 平 年 差	△ 7.8	△ 7.2	△ 0.5	△ 5.6	nc	nc	△ 0.5	0.0	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.1	nc	
東 北	被害率（％）	5.7	4.6	0.3	0.1	1.8	0.7	0.9	0.5	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	
	対 平 年 差	△ 4.0	△ 2.8	△ 1.0	△ 3.5	nc	nc	△ 1.1	△ 1.2	△ 0.1	0.0	0.0	0.0	nc	
北 陸	被害率（％）	2.3	1.6	0.4	-	0.1	0.9	0.4	0.1	0.3	0.2	0.1	0.0	0.1	
	対 平 年 差	△ 2.6	△ 2.0	△ 1.3	△ 0.3	nc	nc	△ 0.6	△ 0.5	0.0	△ 0.1	0.0	△ 0.1	nc	
関東・東山	被害率（％）	6.1	3.9	0.4	0.1	1.3	0.5	1.4	0.4	0.6	0.6	0.1	0.1	0.2	
	対 平 年 差	△ 2.3	△ 0.7	△ 1.5	△ 0.9	nc	nc	△ 1.7	△ 1.2	△ 0.4	0.0	0.0	△ 0.1	nc	
東 海	被害率（％）	5.9	2.4	0.8	-	1.0	0.4	2.0	1.1	0.5	0.8	0.2	0.1	0.2	
	対 平 年 差	△ 0.7	△ 0.2	△ 0.5	△ 0.2	nc	nc	△ 0.8	△ 0.6	△ 0.1	△ 0.2	0.0	△ 0.2	nc	
近 畿	被害率（％）	5.8	2.6	0.9	-	1.3	0.4	1.8	0.9	0.6	0.8	0.2	0.2	0.1	
	対 平 年 差	△ 1.5	0.2	△ 0.6	0.0	nc	nc	△ 1.5	△ 1.1	△ 0.2	△ 0.5	0.0	△ 0.5	nc	
中 国	被害率（％）	5.8	2.8	0.4	-	1.5	0.7	1.8	0.7	0.5	0.8	0.1	0.3	0.1	
	対 平 年 差	△ 1.6	△ 0.9	△ 1.4	△ 0.1	nc	nc	△ 0.6	△ 0.6	△ 0.1	△ 0.3	0.0	△ 0.3	nc	
四 国	被害率（％）	10.9	6.4	1.0	-	5.0	0.4	2.7	1.4	0.9	1.0	0.1	0.2	0.3	
	対 平 年 差	△ 0.1	1.8	△ 2.2	0.0	nc	nc	△ 1.7	△ 0.8	△ 0.5	△ 0.8	△ 0.2	△ 0.7	nc	
九 州	被害率（％）	14.6	8.3	2.5	-	5.6	0.2	4.0	1.9	1.0	1.8	-	0.9	0.3	
	対 平 年 差	2.8	2.2	△ 0.4	△ 0.3	nc	nc	0.2	0.2	△ 0.1	0.1	0.0	0.1	nc	
沖 縄	被害率（％）	19.3	17.6	12.5	-	3.6	-	0.0	0.0	-	0.7	-	-	0.5	
	対 平 年 差	11.3	11.2	7.7	-	nc	nc	△ 0.7	△ 0.7	0.0	0.0	0.0	△ 0.2	nc	

図 1－18 平成24年産水稻の都道府県別被害率（総数）

